

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2021 6 - 7 vol. 68

絵本作家インタビュー 伊藤正道

特集 コロナ禍から広がる
新しい世界



伊藤正道



伊藤正道(いとうまさみち)プロフィール

1956年12月15日神奈川県横浜市生まれ。早稲田大学社会科学部卒業。
大阪ガス、きらら397、USJ、JTBなどのキャラクターデザイン、そのほか、広告・出版・パッケージなど幅広い分野のイラストレーションを手がけた。個展および絵本作品多数。鎌倉・稲村ガ崎にアトリエ「ジオジオ ファクトリー」をかまえ、愛する湘南の空と海に囲まれて創作活動に励んだ。2012年2月17日永眠(享年55)。2014年12月に作品集「ぼくへの小さな旅」を発売、記念展示会を東京と大阪で開催、2017年8月に北海道の剣淵町絵本の館で「伊藤正道 絵本原画展」を開催。主な絵本『大きな古時計』(白泉社/出版ワークス)『空とぶレシビ』(BL出版)『まだかな まだかな』(偕成社)『おじいちゃんと ぼく』(世界文化社)『タニニ・トゥインクルのふしぎなともだち』(BL出版)『僕への小さな旅』(ポプラ社)『はっばくん』(丸善プラネット)『ゆきダルムくん』(教育画劇)他

*ジオジオ ファクトリーHP <http://masamichiito.com/>

絵はストーリーを説明するというよりは、一枚一枚の絵として成立するように描きたい。ファンタジーでもリアリティを追及して、精緻に描きたい。

絵本原画展開催

令和3年5月29日(土)~7月20日(火)



『まだかな まだかな』(偕成社)
星空のずーっとむこうのきいろにかがやく星に、おじいさんがすんでいました。ある日、おじいさんがたねをまくと、おいしい実のなる草木でいっぱいになりました。すると、星じゅうのどうぶつたちがたずねてきて…



『大きな古時計』(出版ワークス)
優しいおじいさんの笑顔と、皆に親しまれている歌詞が「時」と「人」のつながりをしるばせる心温まる絵本。QRコードを読み取り、曲を流しながら絵本を読んでもらうことができます。

原画展示絵本

初夏のギャラリーでは、見る人に魔法をかけてくれるようなファンタジックなイラストで人気の伊藤正道さんをご紹介。タッチの異なる3冊の絵本原画をお楽しみください。

先生のお姉さま



澤田直子さんにインタビュー

伊藤先生はどんなお人柄でしたか？

姉の立場から見ると、小さい頃から好きなことがあると夢中になってしまい、少しわがままで、いつまでも子どものようでした。親しかった方たちは、いつも笑顔で迎えてくれた。ほわっとした優しい人、ゆっくりとした話し方で、歌うこと・甘いもの・犬が大好きだった...など思い出を語ってくださいます。

伊藤先生が絵本作家になられたきっかけは？

高校時代はロックバンドと漫画に夢中でした。漫画家を目指して憧れのちばてつや先生の仕事を訪ねたところ「高校だけでは出なさい」と諭されて、「イラストレーター募集、経験不問」の募集を見て広告制作会社に就職。その後大学に進学しましたが、卒業後、フリーのイラストレーターになり、個展で発表した作品が注目されて、絵本の仕事も依頼されるようになりました。1987年に最初の絵本『おじいちゃんとおぼく』（世界文化社）が出版されました。

伊藤先生がご使用した画材や、絵本をお作りになるときのこだわりは？

用紙はワトソン紙、黄ボール紙、キャンパスなどで、アクリル絵の具を使用していました。絵本を作ることにしたのは、「絵はストーリーを説明するというより、一枚一枚の絵として成立するように描きたい」「オリジナルのキャラクター（おじいさん、少年、犬）に

導かれて新しい世界が広がる感覚で「ファンタジーでも、登場する背景やモノにはリアリティを追求して、細かいところも精緻に描きたい」と言っていました。

今回、原画展を行う絵本『大きな古時計』の制作秘話や思い出を教えてください。

『大きな古時計』は2003年に出版されて絶版になっていましたが、2020年秋に復刊されました。最初に出版した白泉社の方に、絵本が作られた経緯をお聞きしたところ、「伊藤さんには長年、絵本雑誌『MOE』のイラスト・絵本大賞の審査員をお願いしていました。『MOE』の2003年3月号で読者が選ぶ『ころのうたベスト50』を特集しました。その時に1位に選ばれた歌が『大きな古時計』でした。そこでおじいさんを描ける伊藤さんに絵をお願いし、その年の秋に絵本として出版しました」とのことでした。

また、復刊について出版ワークスの方は「音楽を通じて幼児教育できるような絵本は作れないかと考えていたところ、伊藤さんの絵本『大きな古時計』を知り、曲を聴きながら、歌いながら読める絵本にしたいという想いで、今回歌付きの絵本として出版しました」とのことです。

もし伊藤先生がご存命でしたら、今ごろどんな絵本をお作りでしたでしょうか？

路面電車やクラシックカーなど、昔の乗り物が好きだったので、最後に構想していた絵本も、20世紀初頭の飛行機乗りの物語でした。また、晩年の絵本で「はっぱくん」というシリーズがあるのですが、その絵本をきっかけに、木や森などをテーマにした絵本

を作りたいと思っていたようです。アトリエが鎌倉の江ノ電の近くだったので、江ノ電の色々な踏切の風景を描きたいとも言っていました。

伊藤先生との思い出深いエピソードがありましたら教えてください。

古い日本映画や昔の歌謡曲などが大好きだったので、一緒に見たり聴いたり、海見える喫茶店でコーヒーを飲み、とりとめもないおしゃべりをしながら、のんびりと過ごした時間が懐かしいです。

今、伊藤先生に言葉をかけるとしたら、どんなことをお伝えしたいですか？

弟がアトリエ兼ギャラリーとして過ごしていた、鎌倉・稲村ガ崎の「ジオジオファクトリー」で、年に2回ほど伊藤正道原画展を開いています。今でも昔からのファンの方や、初めて伊藤正道の絵や絵本を知った方たちが見に来てくださいます。「いつまでも見守っていてね」と言いたいです。

伊藤先生のファンの皆さんへメッセージをお願いします。

今回、絵本館で伊藤正道の原画展を開いていただき、富山や周辺の方々に弟の絵本を知ってもらうことができて、とても嬉しいです。これからも、どこかで弟の絵本に出会うことができたら、手に取ってご覧いただければと思います。

澤田直子さん、ありがとうございました！



『大きな古時計』
(出版ワークス)

伊藤正道先生の 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
伊藤正道 絵本プレゼント係
締め切り 令和3年8月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『おじいちゃんとおぼく』
ちぎゅうというほしにうまれて
(矢崎節夫／作 世界文化社)
本当に大切な人、本当に大切なものを人はつい忘れてしまいます。地球というかけがえのない美しい星に住む私たちに、おじいちゃんが本当に大切なものは何かを優しく語りかけてくれます。



霜鳥 英梨
おむすび舎 代表

特集 / コロナ禍から広がる 新しい世界

コロナ禍での一人出版社

全世界で起こる自然災害や困難。これまでもいくつも起こってきた。どんなに心を痛めても、その場に居なければやはり傍観者の域は出ない。そんな日々の中、コロナ禍という世界中が同じ困難を経験する事態が2020年の春先から始まり、私たちは困惑し、動かないことを余儀なくされた。

「いつもの生活に戻るまでの我慢!」と、自分にいい聞かせ、戻る日を指折り数えながら待っていた。時がたつほどに、その我慢という足踏みを続けていられない世界になってきていることを遅ればせながら感じた。この状況下でやれることは何だろう。何がやれるんだろう。コロナが広がりはじめた2月に新刊絵本『たべるたべるたべる』(くすのきしげのり/作 小淵もも/絵)を出版した。書店回りや予定していたイベントの企画など、それらが次から次へと中止になっていった。各地に向いて、人に会い、新刊の案内をするという事ができなくなってしまう。そんな中、世の中では苦肉の策としてZOOM飲み会やZOOM会議などが行われ始めてきた。それなら、いつものイベントをZOOMでできないだろうか?リアルなイベントは何が楽しくて人が集まるのだろうか?それを満たすイベントはZOOMでは不可能なのだろうか?など、一生懸命考えた。早々にリモート園ライブなどを始めていたHoiick(保育者のためのWeb

サイト)にご協力いただき、早速、「やさいだいすきだワニ 中川ひろたかさん オンライントークライブ&サイン会」と「くすのきしげのりさん トーク&サイン会」を企画した。サイン会は1対1の対面。リアルなサイン会より、じっくり、ゆっくり講師とお話ができた。遠くに住む方が交通費をかけずに参加できること、おうちに居ながらのんびり参加できること、海外にお住いの親子さんや、絵本を手に入るのはちょっと恥ずかしいかと思っていた男性が参加できたなど良い点が多かった。絵本も通常のイベントより3〜4倍多く販売できた。長丁場にもかかわらず、快く出演してくださった作家さんお二人には心からお礼を申し上げたい。計画していた翻訳絵本『やさいだいすきだワニ』(タムム・ニューウ/作・絵 中川ひろたか/訳)もオンラインでのやり取りの末、7月に出版。コロナ禍で、本の売り上げは上がっているという声も聞くが、やはり書店さんへの営業ができなかったことで新刊絵本はなかなか苦戦している。コロナ禍で、思いがけず生まれたオンラインイベント。コロナ禍だからではなく、これからの【新しい世の中】で、できる選択肢がふえた。

ある人がこんなことを言っていた。我慢ではなく、辛抱という言葉を使いましょう。起きている困難の中で、その辛さを抱きつつ、やれることを考えて過ごす。それは我慢ではなく辛抱なのだ。

私のおすすめ絵本

『あたしのすきなもの、ななんだ?』

バーナード・ウェーバー/文
スージー・リー/絵
松川真弓/訳
評論社

美しい背景とやさしい親子の会話から、やさしい時間の共有と生活のヒントが。



『大きな木のような人』

いせひでこ/作・絵
講談社

植物とのふれあいを通して、成長していく少女。みずみずしい絵がいつそう感動を呼ぶ。



『ぼくがすきなこと』

中川ひろたか/文
山村浩二/絵
ハッピーオウル社

生活の中にあるいろいろな不思議、だれもが生まれながらに持つ感性を忘れずにいてほしい。



『モチモチの木』

斎藤隆介/作
滝平二郎/絵
岩崎書店

輝くモチモチの木のような場面を実体験できますように。



『Life』

くすのきしげのり/作
松本春野/絵
瑞雲舎

素敵なお店のいくつかのエピソードとともに、主人公のこころの変化が絵に表現されている。



『石のきもち』

村上康成/作・絵
ひさかたチャイルド

自然の中にいる生き物たち、いしころを愛おしむ気持ちを伝える絵本。

